

平成30年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ
氏名 季増民

研究期間 平成30年度

研究課題名 急速開発下にある郊外地域における生活圏の再編

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	個人研究		
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

1990年代以降、アジア新興国の急激な都市化は、その結果を郊外地域の土地利用・景観と地域構造・社会生活に深く刻印している。「住民行動」と「空間」は一体不可分な関係にあるため、生活者の所為（経済活動・生活・ライフデザイン）と郊外地域への投影・軌跡を一体的に結びつける統合型学際研究方法の確立が、郊外地域研究の深化を図る上で大きな突破口であり、課題となっている。本研究の目的は、中国を始めとする新興国を対象とし、都市と農村の双方を両にらみしつつ、郊外におけるカナメとなる生活圏である村（RW）単位で異質住民の混住・土地利用の混在による郊外地域の「シェア」実態と変遷を実証的に解明する。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

本研究においては、上海大都市圏における農民工学校在校生へのアンケートや校長への聞き取り、現地確認調査を通じて、農民工学校生徒構成の変化と住居を中心とする農民工の永住過程に焦点を当て、その実態を明らかにしていく。

具体的には、設立から20年近く経過している中、①生徒の構成にどのような変化が現れたか、②マイホームの取得状況または取得計画について、アンケートを実施した。

回収できたのは291枚である。その内訳は、無回答(白紙)4枚、不完全な回答は139枚、有効回答は148枚である。なお、全体像を把握するため、集計は有効回答(148枚)と不完全回答を含む全回答(287枚)、2つのカテゴリーで行った。

3. 研究成果の概要 (600 字～800 字程度で記述)

マイホームの購入は、地理学と社会学を結び付けて横断的に考察する上でいわゆる「人の都市化」の過程におけるエポックメイキング「epoch-making」画期的な象徴といえよう。

マイホームの購入は農民工第 1 世代にとっては、移住先社会の生活者一員として自立できた、いわゆる到達点である。もっと重要なのは、その子弟にとっては公立学校に入学できるようになったのは、移住生活が新しいステージに突入したことを意味する画期的な出来事でもある。即ち、マイホーム購入は親世代が移住先で成功を収めたことを意味する象徴的なことだけでなく、後継者世代も移住先の同世代とともに同じスタートラインに立つことができたバロメーターでもある。

受入れ自治体にとって、いかに将来を展望したうえで、長期的な視野に立って農民工の役割や地域貢献に鑑み、中長期的な地域振興計画を策定することが非常に重要である。自地域住民の利益を最優先しつつも、農民工にも受益できるように政策や措置を策定し、着実に実施する必要がある。特に自地域に生まれ、育ってきた農民工の 2、3 世代については、自地域住民と同一視し、教育、就職、住宅などで平等扱いする方策を講じなければならない。

郊外地域において、地付き農民と農民工との間に、住居利用（貸し借り、売買）を紐帯とする相関関係が生成されている。また、農民工の付き合い範囲も地縁・血縁中心から、職場での農民工間の交流を経て、地元との生活関連交流へと深化していく。人々の移動・永住を通して表現される現代中国の地域・社会構造の変容を把握する上で、郊外地域は目が離せないカナメとなる空間の一つであろう。郊外地域における生活者全員が参加できる社会管理と地域運営システムを組み立てる必要がある。

4. キーワード (本研究のキーワードを 1 以上 8 以内で記載)

①郊外地域	②農民工	③生活圏	④再建
⑤融合	⑥地理学	⑦社会学	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

- ① 楊山・楊虹霓・季增民・于璐璐(2019)：快速城镇化背景下乡村居民生活圏重组机制—基于昆山群益社区的案例研究 (急速な都市化における農村生活圏再編のメカニズム—昆山市群益社区を事例に)、中国語、「地理研究」2019 年第 38 巻第 1 期、pp.119-132
- ② 季增民(2019)：中国沿海部の郊外地域における農民工の「市民化」動向、「椴山女学園大学文化情報学部紀要」第 18 巻、2019、pp.51-61.